

# 第5学年社会科学学習指導案

日時 平成28年10月28日(金) 2校時

指導者 門脇 みゆき

1. 単元名 わたしたちの生活と食料生産  
小単元名 米づくりのさかんな地域 ー山形県庄内平野ー

## 2. 小単元のねらい

- 我が国の米の生産について関心をもって意欲的に調べ、国民生活を支えている米の生産の発展を考えようとする。 **【社会的事象への関心・意欲・態度】**
- 我が国の米の生産の様子から学習問題をつくって追求し、調べたことをもとに米が国民の食料を確保する上で重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考え、適切に表現することができる。 **【社会的な思考・判断・表現】**
- 我が国の米の生産について、地図や統計などの基礎的資料を効果的に活用して、必要な情報を集めて読み取ったり目的に応じた方法でまとめたりできる。 **【観察・資料活用の技能】**
- 米の生産に携わるさまざまな人々が自然環境を生かしながら安全でおいしい米を作るために工夫や努力をしていること、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きについて理解することができる。 **【社会的事象についての知識・理解】**

## 3. 基盤

### ○教材観

本小単元は、学習指導要領の内容(2)「我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする」を受けて設定したものである。さらに、内容(2)ウ「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き」を取り扱うものである。

農業は、国民の食生活を支える重要な産業である。そして、農業に従事する人々は、消費者の需要に応え、良質で新鮮なものを作り出荷するために、地形や気候などの自然環境を生かしながら生産を高める工夫や努力をしている。

米は日本人の主食であり、米づくりは各地の自然条件を反映しながら様々なかたちで営まれている。本小単元は、その中でも日本有数の、米づくりがさかんな地域である山形県の庄内平野を取り上げる。庄内平野は、豊かな水と肥沃な土の恵みを受けながら、耕地整理や機械化などを行い、生産性を高めてきた。また、品種改良や生産効率を高めるための技術の改良を進めたり、味の向上や食の安全確保に努めたりしながら生産や出荷を工夫し、米づくりを行ってきた。そのようなたくさんの工夫や努力がなぜ必要であったか、それはどのようになされてきたか、といった問題解決的な視点から学習できる。

また、社会科の学習を進めるにあたっては、地図や統計といった基礎的資料を活用する場面が多い。本小単元でも、資料から必要な情報を読み取ることが大切である。実際は、複数の資料を関連付けて読み、それらの情報をもとに、多面的・多角的に思考・判断していくことが重要である。よって、様々

な立場から物事を見たり、判断したりする力も育成できる教材であると考え。

児童にとって、庄内平野や江津の米づくり農家の人たちがどのような問題と向き合い、それらをどのように乗り越えようとしているかを学習していくことは、我が国の農業に対するの関心・認識を深めるとともに、普段何気なく食べている米が多くの人々の様々な工夫や努力によって届けられているということを知ることになる。そして、その努力により我が国の食生活が支えられていることを理解し、米に関する問題に関心を持ち、それらにどう適応し、克服していくか「社会の一員として考えていく」態度を育むよい機会になると考え、本小単元を設定した。

(また、総合的な学習の時間との関連で、田んぼでの米づくり体験や JPX 起業体験プログラム (※後述) でのお米商品の販売を行い、児童たちが主体的に米づくりについて学べるようにしていきたい。)

※日本取引所グループの活動の一つ。株式会社を模擬的に設立・経営する体験を通じ、自ら学び・自ら考える力などの「生きる力」を育むことを目的とする活動。

## ○児童観

…<個人情報保護のため省略>…

## ○指導観

社会科では、5年生になると学習の対象が身近な地域から日本全国へと広がり、見学や体験学習を行うことが難しくなる。典型事例を通しての学習が多くなり、児童にとっては実感的な理解や具体的なイメージを大切にしたい学習が行いにくい面がある。そこで今回は、「社会的事象を自分のこととして捉えられるよう」に、自分たちが住む江津市内で米づくりに携わっておられる農家の天野さんの話を聞く活動を単元全体を通して取り入れることにした。これにより、児童が米づくり農家の願いを、より身近に感じることができると考える。また、江津市と教科書に出てくる庄内平野とを比べながら学習することが可能となるため、気候や地域の土地の問題などの理解が容易になり、その理解度も深みを増すと考えられる。

本小単元の指導にあたっては、本校の研究と関連づけ、以下のような点に配慮して指導を行っていく。

### ①課題把握

#### ○社会的事象の意味を意欲的に追究できる教材開発

庄内平野は「日本の米づくりの先進地」であり、消費者のニーズに応えるために様々な取り組みが行われている。一方、江津市は米づくりがさかんというわけではないが、米づくりに対して様々な取り組みを行っている。江津市と庄内平野の米づくりを比べることで、それぞれの地域がもつ特性を生かしながら農業を発展させていることを理解することができると考える。

児童が米づくりを身近に感じ、主体的に学習していけるように、学習過程において江津市の米づくり農家の天野さんに取材する活動を取り入れる。天野さんを中心として活動している「川平みどり」は、「地方の農業の新しい姿」と考える。それは、次のような点である。

- ・「川平みどり」という農業法人を設立して米づくりをしている。
- ・広い農地を圃場整備している。
- ・機械を共同購入・利用して作業をしている。
- ・田んぼの一部を転作し、大豆を作っている。
- ・慣行栽培米と特別栽培米【減農薬減化学肥料農法（農薬，化学肥料の使用量が5割以下）】を作っている。特別栽培米に力を入れている。
- ・米の商品開発に力を入れ、産地直営売り場や都会などに出荷している。
- ・米に関心をもってもらうため、消費者と交流している。（農業体験）

この「川平みどり」の取り組みを学習することを通して農業に関心を持ち、日本の米づくりについて考えるきっかけとなってほしい。

#### ○導入の工夫

導入では、児童と教師が用意した「米の袋」を使う。袋には、品種、産地、生産者、販売者、そして生産者の顔写真など、様々な情報が載っている。それらの情報から重要だと思った内容を選び、列記し、比較する。この活動により、様々な栽培方法があることに気付いたり、生産や流通の傾向をつかんだりすることができる。さらに、米のブランド化や地産地消、安心・安全など、現在の農業の取り組みや問題にまでつなげることができ、効果的な学習の展開が期待できる。

## ○児童とつくる学習問題

児童の「米」に対する思考や疑問を把握するために、単元のはじめに「米」をテーマにグループごとにマインドマップを作る。児童自身が解決していきたいと考えていることこそ切実な問いになるのではないかと考えたからである。そこから出てきた疑問を、単元全体を通し解決していくという見直しをもちながら、主体的に取り組んでいけるようにしたい。

## ○社会事象と自分とのかかわり

児童は、社会の出来事と自分の間につながりを感じたときに、初めて自分の事として考えられる。よって、児童が社会的な事象との間にかかわりを感じられるような資料や発問を工夫し、児童の問題意識を高めたい。また、社会参画しようとする気持ちや態度を養いたい。

庄内平野の米づくりの学習の中に、江津市の米づくりと比較する時間を設ける。これは、児童にできる限り米づくりを身近な問題として感じてもらうためである。農業に従事している人々の工夫や努力について、生の声に触れさせ、この土地や日本の将来に向けて、自分たちはどう関わるべきか、これからどうすればよりよくなるかなどを考えさせ、自分の意見を構築できる学習過程を工夫したい。

## ②課題追究

### ○家族へのインタビューや街頭アンケート

子どもは、大人の姿を通して社会を見ている。児童と社会をつなぐ最も身近な存在は、家族である。家族にインタビューをすることで興味・関心をもたせる。話を聞いたり、考えを交流したりしたことをもとに、「自分ならどうするのか」を考えさせる。

そして、さらに自分が社会の一員として生きるためには、実社会で生きる様々な人たちと交流することが大切である。街頭インタビューでより多くの大人の意見を聞く活動も取り入れたい。

### ○ゲストティーチャー

江津で米づくりをしておられる天野さんと佐々木さんをゲストティーチャーとして招く。ゲストティーチャーから米づくりの傾向や社会的な問題などについての話を聞いたり、インタビューしたりする。また、一緒に未来の農業と消費者の在り方について考えを交流できる場や機会を設定する。

### ○ペア・グループでの話し合い

- ・話し合いの視点を明確にする。

自分の意見をもつ際に、どの資料のどの部分をもとに考えたのか、根拠をはっきりさせて考えをもたせるよう支援する。また、聴く側にも「どの部分に納得できるか」を意識させて話し合わせる。

- ・発問を工夫する。

児童が考えやすく、多様な意見が出やすい発問を吟味したい。さらに、考えを深めたり、焦点化したり、話し合いを活性化できるような補助発問も計画する。

- ・根拠を明確にする。

全体で考えを広げたり深めたりする場では、自分の考えと資料との関連を意識し、根拠をもって意見を述べさせる。

- ・自分の考えを広げたり深めたりする。

友だちとの話し合い活動を通して、新しいことに気づいたり、友だちの考えの良さに気づいたり、多様な意見があることに気づいたりして、物事を多面的な考え方や広い視野で捉えることができるようにする。そして、友だちの考えを整理しながら、さらに自分の考えを深めることができるようにする。

- ・思考ツールの活用

学習課題について思考が活性化するため、必要に応じて思考ツールを活用していく。

### ○総合的な学習の時間と関連

総合的な学習の時間の「お米プロジェクト2016」では、田んぼでの米づくりと米を使った料理の商品開発及び販売を行っている。米づくり体験では、4月に育苗センターでの粃まき、6月に田植え、10月に収穫など、一連の作業を体験する。もう一方で、JPX起業体験プログラム（※前述）で、地域の秋祭りで米の商品を販売する活動に取り組んでいる。4月の粃蒔きから10月の収穫まで、長期的な学習期間を設け、農家の人たちと田んぼを見守ることによって、生産者の工夫や努力を感じ、さらには農家が抱える問題などについて資料の理解に留まらず、資料から想像を膨らませたり、実体験を通して理解を深めさせたりする。さらに、JPX 起業体験プログラムでは、流通から販売の一部を体験することで、生産者側と消費者側の両方を体験させ、経済活動全般をも含んだ、米づくりへの理解を深めることを期待する。

### ○予想を立て、資料から読み取った事実と自分で考えたことの両方を書く

本学級の児童は、資料を使って課題を解決したり自分なりに考えて判断したりする力が十分だとは言えない実態がある。そこで、与えられた資料の読み取りの時から、課題に対する予想を立て、見通しと課題意識をもって読み取りが行えるようにする。また、読み取った事実と事実をもとに自分で考えたことを分けて記述させるようにして思考・判断を促すようにしたい。

### ○様々な立場から考える

社会的事象を自分とは違う立場からも考察し、根拠をもとに自分の考えをもつことを促していく。生産者と消費者、専業農家と兼業農家、JAなど様々な視点から物事を考えさせ、広い視野から物事を見つめることを通して、米づくりについてより深く理解できるようにしたい。

## **③課題解決**

### ○まとめの工夫

毎時間の終わりに、学習内容を自分の言葉でまとめさせる。ペアで考えさせたり、学んだ用語を使ってまとめさせたりして、最後にはみんなでまとめ、学習内容の定着を図っていききたい。

## **④新たな課題**

### ○次の課題へつなげる振り返り

毎時間、振り返りをノートに書かせる。分かったことだけでなく、それをもとに疑問に思ったことやそれに対する予想なども書かせるようにすることで、連続性をもたせたい。

#### 4. 単元計画

##### (1) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>① 我が国の米の生産の様子に関心を持ち、庄内平野を事例として意欲的に調べている。</p> <p>② 国民生活を支えている我が国の米の生産の発展を考えようとしている。</p>	<p>① 我が国の米の生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</p> <p>② 米の生産と自然環境や国民の生活とを関連づけて、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考え、適切に表現している。</p>	<p>① 地図や統計などの資料を活用して、米の生産に従事している人の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>② 調べたことを白地図や「米づくりの本」などの作品にまとめている。</p>	<p>① 米の生産は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや我が国の米の生産は自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを理解している。</p> <p>② 米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなどを理解している。</p>

##### (2) 単元指導計画と評価計画（社会科 1 2 時間）

★ゲストティーチャーを随時

過程	時	めあてと主な学習活動	資料, 体験等	評価規準 【評価方法】
つかむ	1	<p>米づくりはどこで行われているか調べよう。</p> <p>○米袋を見て、表示されている内容や米づくりはどこで行われているか調べる。</p>	<p>◇米袋 ◇白地図</p>	<p>関意態① 【発言・ワークシート】</p>
	2	<p>庄内平野はどのようなところなのかを調べ、米づくりについて調べたいことを考えよう。</p> <p>○米づくりがさかんな庄内平野の写真や地図を読み取り、わかることや疑問をもとに学習問題をつくり、学習計画を立てる。</p>	<p>◇日本地図 ◇庄内平野の航空写真 ◇庄内平野の鳥瞰図 ◇10aあたりの米の収穫量 ◇米の品質を表す一等米比率 ☆江津の圃場整備された田んぼの写真 ★ビデオ</p>	<p>関意態① 思判表① 【発言・付箋・話し合い】</p>

調べる	3	<p>庄内平野はどうして米づくりに適しているのか調べよう。</p> <p>○写真や地図、資料をもとに、米づくりと自然環境とのかかわりについて話し合う。</p>	<p>◇最上川の航空写真 ◇庄内砂丘の写真 ◇庄内平野の土地利用図 ◇気温、降水量、日照時間のグラフ</p>	技能① 【発言・ノート・話し合い】
	4	<p>米づくりにはどのような工夫や努力があるか知ろう。</p> <p>○米づくりの1年について調べ、農業暦をつくる。</p>	◇米づくりの工程の写真 (掲示用、作業用)	知理② 【発言・ノート】
	5	<p>農家の人たちはよりよい米づくりのために、どのように協力しているのか考えよう。</p> <p>○米の生産を高めるためにどのような工夫をしているのか調べる。(機械化、共同化など)</p>	<p>◇用水路と排水路の仕組み ◇小型ヘリコプターを使った農薬散布の写真 ◇地域の人たちが集まる勉強会の様子 ★ビデオ</p>	知理② 【発言・ノート】
	6	<p>農家の人たちを、だれがどのように支えているのか調べて話し合おう。</p> <p>○農業協同組合(JA)や農業試験場などがどのように米づくり農家を支え、よりよい米づくりを行ってきたかを調べて話し合う。(品種改良、品質管理、JAなど)</p>	<p>◇写真「農業試験場での試験」「新しい農業機械」「営農指導部の指導を受ける」「米の生育調査」 ◇庄内平野でつくられる品種 ★ビデオ</p>	技能① 【発言、ノート】
	7	<p>庄内平野の米は、どのように消費者に届けられるのか調べよう。</p> <p>○庄内平野の米がどのように消費地へ届けられているか調べ、輸送の費用と価格の関係について話し合う。(運輸関係、価格と費用)</p>	<p>◇カントリーエレベーターのしくみ ◇庄内平野の米が全国にとどくまで ◇米袋の表示 ◇米づくりにかかる費用</p>	知理② 【発言・ノート】
	8	<p>町の人たちの意見を聞いてみよう。</p> <p>○慣行栽培米(5kg 2100円)、特別栽培米(5kg 2620円)、有機栽培米(5kg 4110円)のどれを買うか、街頭インタビューをする。(消費者にアンケート)</p> <p>慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米のどれをみますか。(街頭インタビュー)</p>	<p>◇5kgの米 ◇表・シール</p>	関意態② 【街頭インタビュー】
	9	<p>「慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米のどれを買うか」について自分の立場を決め、意見をまとめよう。</p> <p>○自分の選んだ栽培方法について調べ、まとめて、次時の話し合いの準備をする。</p>	◇調べ学習	技能①【ノート】

まじめる	10 本時	<p>日本の米づくりについて考えをもとう。</p> <p>○なぜ、天野さんたちが特別栽培を作るのかを考え、話し合う。 ○これからの日本の米づくりについて考える。</p>	<p>◇街頭アンケートの表</p> <p>◇島根県の米集荷量全体に対する特別栽培米の割合の推移</p> <p>◇天野さんの特別栽培米の行方</p> <p>◇他県の特別栽培米の割合の推移</p> <p>◇天野さんの写真</p> <p>◇米づくり農家が抱える問題に関する資料</p> <p>★ビデオ</p>	<p>思判表② 【発言・話し合い・ノート】</p>
	11	<p>農家の人たちは、どのような問題をかかえ、立ち向かっているのか知ろう。</p> <p>○「川平みどり」の天野さんと佐々木さんをゲストティーチャーに招き、米づくりについて話を聞いたり、インタビューしたりする。（日本の米づくりが抱える課題、課題に対する取り組み、これからの米づくりなどについて）</p>	<p>○米づくり農家の方へのインタビュー・意見交流</p> <p>★天野さん・佐々木さん</p>	<p>関意態② 【発言・ノート】</p>
	12	<p>米づくり農家の人たちの工夫や努力について考えて、「米づくりの本」にまとめよう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、米づくり農家の人たちの工夫や努力について考え、「米づくりの本」にまとめる。</p>	<p>◇米づくりの本</p>	<p>知理① 技能② 【米づくりの本】</p>

(3) 知識と問いの構造図 (別紙参照)

5. 本時の学習

(1) ねらい

天野さんが特別栽培米をつくる理由について話し合うことを通して、日本の米づくりについて自分なりの考えをもつことができる。

【社会的事象への思考・判断・表現】

(2) 展開 (本時 10 / 12時)

学習活動	教師の支援 (○) と評価 (☆)	◇資料
1. 前時を振り返る。	○「慣行栽培米, 特別栽培米, 有機栽培米のどれを買うか」について調査した結果の表を提示する。	◇街頭アンケートの表
2. 本時のめあてを確認し, 予想する。	<p>○天野さんが慣行栽培米と特別栽培米を作っていることを知らせる。</p> <p>○天野さんの米づくりは, 日本の米づくりの一つであることを意識づける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">めあて 日本の米づくりについて考えよう。</div> <p>○日本の米づくりについて具体的なイメージをもたせるために, 天野さんの米づくりについて考えさせるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">なぜ天野さんたちは, 特別栽培米を作っているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんのニーズがある。</li> <li>・安心・安全な方がよい。</li> <li>・プレミアム感。ブランド化。</li> <li>・いろいろな人に食べてもらいたい。喜んでもらいたい。</li> <li>・高く売れる。</li> </ul> <p>○「特別栽培米」について調べている児童の資料を引き出すようにする。</p> <p>○出てきた意見を視点ごとに整理して板書する。</p>	<p>◇天野さんの特別栽培米の割合</p> <p>◇天野さんの特別栽培米の行方</p> <p>◇島根県の米集荷量全体に対する特別栽培の割合の推移</p> <p>◇他県の特別栽培米の割合の推移</p>
3. 話し合う。 ・一人 ・ペア ・全体	<p>○第2の発問をし, さらに思考を深め, 話し合いが活発になるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">それなら, もっとたくさん作ればいいのに, どうして作らないの?</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人手がたくさん必要。 → でも, 後継者不足で人がいない。→後継者を育てればいい。</li> <li>・高齢化でそんなに作れない。→若い人が作ればいい。</li> </ul>	◇資料集他

<p>4. 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭インタビューでは, 特別栽培を買いだいたい人が多かつた。</li> <li>・たくさん作る。→米が余っている。米の消費量が減っている。→もっと米を食べるようにしよう。</li> <li>・化学肥料を使わない方が土にもやさしいから, 作ればいと思う。</li> </ul> <p>○米づくりが抱える課題に関わる意見が出た時, 資料が提示できるように用意しておく。</p> <p>○天野さんからのビデオを視聴し, 時代の流れの中で日本の米づくりを残すために自分自身も模索しているところであることや, 米づくりに対する思いや願いを伝える。</p> <p>○板書を見て, 出てきた視点を整理する。</p> <p>○話し合いを振り返り, 天野さんのことだけではなく, 日本の農業の在り方, 自分ができることなどについて書けるようにする。</p> <p>☆天野さんが特別栽培米をつくる理由について話し合うことを通して, 日本の米づくりについて自分なりの考えをもつことができる。(思判表) 【発言・話し合い・ノート】</p>	<p>◇米づくりが抱える課題に関する資料</p> <p>◇ビデオ</p> <p>◇プリント</p> <p>◇ノート</p>
--------------------	---	---

(3) 本時の評価

十分満足と判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
<p>日本の米づくりについて自分なりの考えをもち, 友達の意見を取り入れながら根拠や理由を明確にして発表している。</p>	<p>日本の米づくりについて自分なりの考えをもっている。</p> <p>例)・日本の米づくりには問題もあるけれど, 安心・安全な米を届けるために工夫や努力をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者のニーズに応じて多くの人においしくて安全な米づくりをしておられる。</li> <li>・これからも安心・安全な米が食べたい。</li> <li>・これから, お米のことにもっと関心を持ちたい。</li> </ul>	<p>話し合いや振り返りの視点を与えたり, 友だちの意見に納得した部分とその理由を言ったりするように声をかける。</p>

(4) 研究の視点

- ・天野さんの米づくりを取り上げたことは, 全国で行われている米づくりについて, 自分たちのこととして考え, 児童が進んで学習に取り組む上で有効であったか。
- ・設定したためあてや発問は, 児童の「問い」を大切にしたものになっていたか。

10/28

めあて 日本のお米づくりについて自分なりの考えをもとう。

振り返り

・日本の米づくりには問題もあるけれど、安心・安全な米を届けるために工夫や努力をしている。

・消費者のニーズに応じて多くの人においしくて安全な米づくりをしておられる。

・これからも安全な米が食べたい。

・これから、お米をたくさん食べたい。

・これから、お米のことにもっと関心を持ちたい。

なぜ天野さんたちは、特別栽培米を作っているのだろう。

生産者

- ・高く売れる。
- ・ブランド化したい。
- ・イメージアップ
- ・いろいろな人に食べてもらいたい。
- ・たくさん作りたい。  
(◎手間がかかる, ◎後継者がいない, 米が余る)
- ・強い品種があったらいい。
- ・◎安くしたいけど、もうからない。

消費者

- ・ニーズがある。
- ・安かったら買いたい。
- ・おいしい。

安心・安全

- ・農薬が少ない。
- ・体にいい。
- ・環境にもいい。

おいしい

- ・自慢の米
- ・また買う

生産者, 消費者, 両方の願い

アンケート  
結果

資料: 天野さんの特別栽培米の割合

資料: 島根県の特別栽培米の割合

資料: 他県の特別栽培米の割合